



トルコ地震(2023年2月)被災学生との防災交流プログラム

目的

- ・トルコ・日本の大震災から将来の地震防災に向けた教訓をともに学ぶ
- ・震災の教訓をベースとした防災教育教材を中東工科大学の学生と協働して作成
- ・作成した教材を被災地（カフラマンマラシュ・アディヤマン）の学校教員等に提供し、生徒とは心のケアに配慮した文化交流を行う

KUIS 関西国際大学
Kansai University of International Studies

Türk Japon Vakfı



Schedule

1日目		伊丹空港→羽田空港→イスタンブール空港
2日目	午前	イスタンブール空港→アンカラ空港
	午後	土日基金、JICA訪問
3日目	午前	中東工科大学訪問
	午後	AFAD訪問
4日目	午前	土日基金での講義
	午後	METUの学生と協働ワーク
5日目	午前	METUの学生と協働ワーク
6日目	午前	アンカラ空港→カフラマンマラシュ空港
	午後	被災地調査
7日目		文化交流&防災教材提供、被災地調査
8日目		文化交流&防災教材提供、被災地調査
9日目	午前	文化交流&防災教材提供、被災地調査
	午後	カフラマンマラシュ空港→イスタンブール空港
10日目		ブルサ防災館訪問
11日目		イスタンブール文化財防災調査
12日目		イスタンブール空港→関西国際空港

事前学習:募金活動・ビデオレター

【2023.02.06トルコ南東部を震央とした地震発生】
→募金活動の実施（実施の際にはトルコと日本の友好の歴史を紹介）
募金活動で集まった義援金とともにビデオレター制作
トルコと日本の友好の歴史について調査
参加したメンバーは全員防災士の資格を取得



ブルサ防災館訪問<人防をモデルにブルサ県が建設>



- ・ヴァン地震(2011.3)被災地再現
- ・筋交いによる耐震補強実験
- ・強風体験施設
- ・地震体験施設
- ・一酸化炭素中毒の人形シミュレーション
- ・煙の中での避難訓練
- ・油火災の消火訓練
- ・緊急連絡通報体験
- ・資料（阪神淡路を含む）
- ・4Dシアター など



文化交流 カフラマンマラシュ・アディヤマン

カフラマンマラシュの小・中・高・ユースセンターの計6箇所で文化交流

- ・折り鶴
- ・兜作り
- ・うちわ作り
- ・ブンブンゴマ作り
- ・けん玉
- ・お手玉
- ・歌、ダンス

しあわせ運べるように(トルコ語字幕付)
トルコの民謡、大きな栗の木の下で



<メンバーリスト>

三村(経4)、寺澤(心2)、金子(心2)、吉川(心2)、永野(心3)、植田(経2)、神野(心2)

被災市街地の被災住宅・仮設住宅

被災住宅

- ・レンガがスカスカ、床や柱が薄く、鉄筋も細く、コンクリートの質も悪く見え、災害（地震）に遭えば崩れそうな感じがヒシヒシと伝わってきた
- ・建物全体の耐震設計、品質管理の向上が全体の課題である



仮設住宅

- ・ギョルバシュでは、広範囲でコンテナハウス仮設が展開されていた
- ・現在（2024.3）でも多くの被災者は、このコンテナハウスで実際に暮らしている



復興住宅

- ・アディヤマン近郊では復興住宅が建てられており、復興が着々と進んでいる

教材協同製作

1. ぼうさい持ち出しリュックを作ろう

（GSインドネシア、マレーシア、ベトナムで作成）



ITEMS	ITEMS TOILET	ITEMS
Masks マスク	Portable toilet 携帯トイレ	Clothes 衣服
Plastic bag ゴミ袋	Canned food 缶詰食品	Food 非常食

複数枚のカードの中から9つのカードを選び、自分ならではの防災リュックの作成

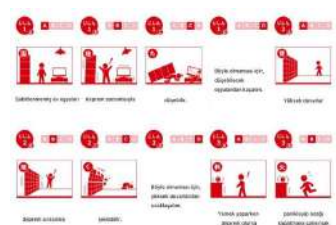
3. 防災神経衰弱絵合わせ（解説付き）

神経衰弱をベースとした教材。カードには、災害の時の避難行動を記載し、楽しみながら、学ぶことができる教材になっている



2. 防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」

<タイムライン>（国土交通省国総研ベース）



状況によって次に何が起るのかを想像することが求められる教材。正しい行動の解説を最後のカードに加え、学ぶことができる

4. 紙ぶるる：厚紙による耐震実験装置製作キット

（名古屋大学福和研究室）

筋交いの有無によって建物の耐震性がどれだけ異なるのか分かるものになっている



まとめ・感想

- ・実際の被災地で被災建物、被災生活や復興状況を見ることができ、とても良い経験になった。
- ・復興が進んでいる地区とあまり進んでいない地区との差を感じた。
- ・教材作りや学校訪問を通じて、トルコの学生と防災の知見を共有し、被災者と交流ができた。
- ・モスクで女子はビシャフ(スカ-7)を着用するなど、イスラム文化を体験することができた。
- ・トルコと日本の災害に対する考え方や備え方・心理的サポートの違いを知った。

- ・土日基金から「被災者が孤独を感じている中、1年たって神戸の若者が遠路会いに来てくれたことは、奨学生や被災者に勇気と元気を与える最良の『こころのケアプログラム』になったと高く評価された。

文化財防災確認

【アヤソフィア・トプカプ宮殿】

- ・消火栓、消火器
- ・避難通路、避難経路サイン
- ・AED（自動体外式除細動器・解説付き）
- ・緊急連絡ボタン

